

第26期
事業報告

平成28年度
平成28年8月1日から平成29年7月31日まで

公益財団法人
全国税理士共栄会文化財団

第 26 期事業報告

<目 次>

I . 事業の状況

1. 顕 彰	1 頁
2. 助 成	2 頁

II . 庶務の概況

1. 役員等に関する事項	13 頁
2. 職員に関する事項	15 頁
3. 役員会等に関する事項	16 頁
4. 文部科学大臣宛の提出書類に関する事項	21 頁
5. 内閣府等宛の提出書類に関する事項	21 頁
6. 諸官庁宛の提出書類に関する事項	21 頁
7. 登記に関する事項	21 頁
8. 附属明細書に関する事項	21 頁

I. 事業の状況

1. 顕彰

本財団定款第4条第1項第1号及び第2項に基づき、平成29年2月20日(月)、帝国ホテル(千代田区)にて次の団体に対し、第25回「全税共人と地域の文化賞」を贈呈した。

伝統芸能分野

田原祭保存会(京都府)

京都府南部に位置する山間の集落である宇治田原町は、宇治茶の主産地として名を知られる。その宇治田原町に伝わる五穀豊穡を祝う秋祭が『田原祭』で、田原三社と総称される大宮・三ノ宮・一ノ宮(御栗栖^{みくるす})の神輿が、主邑である郷之口にしつらえられたイバ(居場・射場)に集結して行われるので『三社祭』とも称される。

中世から約700年に亘ると思われる神事祭礼を執り行ってきたのが氏子集団(宮座)で、幾つかの変化を見せながらも今日に形態を伝えているのが貴重である。宮座は15座あり、職掌別に記録・事務・馬役を担当する公門座^{くもん}、舞を演じる聲翁座^{せいのお}・王鼻座^{おうのはな}・田楽座・獅子座を設け、荒木一族座と田原一族座が郷侍集団で統括の役割を担う。

このうち、地元で「舞物」と呼んでいる聲翁・王鼻・田楽・獅子の4座の存在が芸能史的に注目される。この「舞物」は還幸祭の場で奉納されるが、「駆け馬」「日の使の儀」といった神事を含めた一連の行事に奈良・春日若宮おん祭の血流を感じさせ、簡略化された儀式の中に確かな古風を残す。

地元の識者と宮座の人々とが相寄り、簡略化された現在の形を出来るものから昔に近づけたいという機運を高めている。宮座のこれからの在り方に地域全体で取り組む姿勢が顕彰にふさわしいと考える。

2. 助 成

本財団定款第4条第1項第2号及び第2項に基づき、次の各分野において、個人及び団体に対し助成を行った。

芸術活動分野

① 特定非営利活動法人福祉工房 P & P（京都府京都市）

障害者就労継続支援 B 型事業所（通常の事業所に雇用されることが困難であり雇用契約を結ぶ就労も困難な方が対象）を市内に 4 ヲ所開設し運営している。支援スタッフが障がい者の ART BRUT【生の芸術】という独創的な創作活動を支え委託販売も行う。

2017 年秋には智積院の協力により、行政機関や民間企業と連携し合同展を企画している。

② 特定非営利活動法人アート・アーキテクト・フェスタ（大阪府大阪市）

建築や環境デザイン等の分野を専攻する大学生を対象とし、普段は体験できないスケールで作品制作を行う地域滞在型ワークショップを開催する。

国内外で活躍する建築家を中心とする講師陣の指導により、開催地の歴史・地域環境を研究、大学間の交流でその場所における社会的な実作品を制作するという経験を養うことを目的する。

③ 一般社団法人日本合唱協会（千葉県市川市）

前身である日本合唱協会（1963 年設立）の意思を継承し、芸術性の高い公演・ファミリー向けのコンサート・学校演奏会など地域の音楽・芸術の発展に貢献している。

2017 年 11 月には、文化功労者で最高の指揮者といわれる秋山和慶がタクトをふり、音楽家・山田一雄氏が晩年を過ごした横浜においてその軌跡を振り返る演奏会を開催する。

④ 北海道打楽器協会（北海道札幌市）

2007年4月に設立。打楽器の演奏会や講習会などを開催、会員の学ぶ機会を提供すると同時に将来を担う若手演奏家達の演奏技術の向上をはかるため道内各地で活動している。

国内外の著名な打楽器奏者を招きマスタークラス・レクチャーや演奏会を開催し、会員だけでなく道民にも広く打楽器音楽の素晴らしさ、楽しさを紹介している。

⑤ 劇団すがお（三重県桑名市）

創立55周年を迎える。県下全域や北陸及び南九州、海外では韓国やアイルランドでも公演を行っておりその回数は500回を超える。

劇団のテーマとして「働きながら演劇をわが住むほとりを開拓しよう」を掲げ、また広く一般から募集した市民と共に地元・桑名の歴史をテーマにした芝居を作るなど、地域の芸術発展に貢献している。

⑥ やまがた たいち 山縣 太一（静岡県伊東市）

俳優・演出家・振付家・ダンサー。2001年より演劇ユニット[チェルフィッチュ]に参加。

海外公演の体験の中で、字幕に頼らず説得力のある身体表現を模索し、日常の無自覚で豊かな身体を自覚的に舞台上にのせるための独自のメソッドを考案した。舞台人のためのワークショップを横浜中心に各地で行うなど、後進の育成にも尽力している。

⑦ いとう みゆき 伊藤 美由紀（愛知県名古屋市）

2005年から毎年1回、愛知県出身や在住の国際的な演奏家・作曲家に呼びかけ地元ホールや大学の協力を得ながら現代音楽中心の公演を開催している。

一般的な公演では取り上げることがない楽器編成や、

テクノロジーを使用した挑戦的なプログラムを企画している。今回はフランスの電波楽器オンド・マルトノを、奏者・原田 節を迎えて公演を行う。

⑧ 特定非営利活動法人アートステージ空知（北海道滝川市）

良質な音楽・映画・演劇等の鑑賞会や講演会を実施する目的で2004年に設立された。

2016年には障がい者と演劇を創り公演をするため、拓殖大学北海道短期大学及び深川市手をつなぐ育成会と共にプロジェクト実行委員会を発足。宮沢賢治の「風の又三郎」「春の修羅」をモチーフに3年継続の事業を予定している。

⑨ NPO 法人 宮崎千年音楽舎（福岡県福岡市）

2012年、音楽を中心とした市民参加型の事業を行うために設立された。

本年12月にはアメリカを代表する作曲家ルー・ハリソン生誕100周年記念コンサートを二日間にわたり開催する。福岡を拠点として活動しているガムラングループを起用し著名な海外演奏家を招聘するなど、アジアの玄関口といわれる福岡に大きな刺激を与える活動を行う。

⑩ ジャパニーズコンポーザーアーカイヴズ（東京都豊島区）

100年以上にわたる日本クラシック音楽の歴史を振り返り、吹奏楽演奏会やオーケストラ演奏会、室内楽公演など様々な形で日本人作曲家の仕事をアーカイブする活動を続けている。

今回は、日本人作曲家として戦後はじめて海外で認められ、日本の伝統的な芸術や人々の生活に根差した文化を音楽へと昇華させた黛 敏郎の業績にスポットをあてる。

⑪ 安倍圭子プロジェクト実行委員会（東京都練馬区）

国際的マリンバ奏者である安倍圭子は、マリンバの新たな奏法を開拓しながら音楽表現の幅を拡げ、多くの作曲家への委嘱活動を実践してきた。同時に自身の作品も生み出し、マリンバを独奏楽器として確立させた。

今年傘寿を迎え、その芸術活動と世界中のマリンバ界における歴史的活動の功績を讃えるため記念演奏会を開催する。

⑫ 鳥公園（東京都西東京市）

2007年に設立。社会の矛盾や不正を冷静に観察し、単なる正義感により断罪するのではなく人間の奥底に潜む暗部を暖かく捉え、普通は気付かない視点を提示していくという特徴的な演劇活動を行っている。

また、フィールドワークを繰り返し地域が抱える課題を抽出、地域の資源を再発見するなど地域との関わりを重視している。

⑬ インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響^{きょう}-kyo（東京都港区）

車椅子を使用するダンサーを交えて様々に異なる身体性を活かし、新しいダンスの領域を拓きつつあるコンテンポラリーダンスカンパニー。2014年に立ち上げこれまでに自主公演を3回行い、舞台以外にも地域の障害のある人達と定期的にワークショップを行うなどの活動を展開し、社会とダンスをつなぐ活動として注目を集めている。

⑭ 水越^{みづこし} 朋^{とも}（神奈川県平塚市）

場や価値観が変わっても常に自身の存在は変わらないという考えのもと、ダンス・演劇・映像作品とジャンルを超え活動してきた若手ダンサー。

近年、SNSの普及など加速する情報化社会の中で希薄化

する身体を物体と捉え、植物や電子機器など身体と共に存在している物体の観察、さらに物体こそなし得る『移行』の特性・本質を掘り起こす。

⑮ 河内いえ・まち再生会議（大阪府東大阪市）

ショールーム・イベントスペース・事務所の役割を兼ね揃えた石切ヴィレッジが拠点。人口減少と高齢化が進行する地域で、住まいにおいて多様化する住民の悩み事や、空き家の増加に伴う街並みの衰退の問題に関して、行政とパートナーシップを組み世代交流の場を作り街を再生することで諸問題を解決することを目的として活動している。

⑯ 秋吉台現代音楽研究会（山口県周南市^{しゅうなん}）

「秋吉台の夏」現代音楽セミナーコンサートは、第一線で活躍する演奏家などが講師を務める日本初の宿泊型現代音楽セミナーコンサートである。

世界の主要現代音楽祭とも提携し、秋吉台から新たな音楽創造を発信。また1998年には『秋吉台国際芸術村』が整備され、地元への芸術創造や鑑賞機会の提供といった役割も果たしている。

⑰ 愛知祝祭管弦楽団（愛知県長久手市）

愛知万博祝祭管弦楽団として演奏会を実施したメンバーにより設立されたアマチュアのオーケストラ団体。規模が大きく実現が難しいワーグナーのオペラ演目を中心に演奏活動を行う。オペラを分かりやすく、また面白く伝えるため簡易的な演出や日本語字幕表示を取入れている。評価が高まりつつあり今後の活躍が期待される。

⑱ いわきフレンズ未来夢プロジェクト実行委員会（福島県いわき市）

東日本大震災後、地元ゆかりの音楽家らが福島や東北

への思いから、子ども達と参加型コンサートを開催したことがきっかけで活動を開始。貴重なジャーマン・チェンバロやクラヴィコードなど鍵盤楽器の原点ともいえる古楽器を使用した公開レッスンとコンサートを行う。子ども達や人々の心の支えの一つとなる芸術文化として定着しつつある。

⑱ 東川町写真の町実行委員会（北海道上川郡）

1985年に「写真の町」を宣言。写真文化を中心とした町づくりや地域の活性化に取組み、中核イベントの東川町国際写真フェスティバルは今年で33回目を迎える。今後の写真界を担う若者はじめ全国から集まる全ての写真関係者・愛好家が「写真の持つ力」に感動し、写真の可能性や魅力を実感できる場として高い評価を受けている。

⑳ はなもとゆか×マツキモエ（京都府京都市）

京都造形芸術大学舞台芸術学科卒業。2008年ダンスデュオプロジェクトを結成、2010年若手舞台芸術家のコンペティションで優秀賞、2014年横浜ダンスコレクションでは本選出場と、確実に実力を蓄えてきた。

アトリエ劇研では年に1度単独公演を行い、投稿された動画は再生回数10万回を突破するなど国内外で注目されているダンスデュオである。

㉑ NPO 法人ミュージカル劇団エルフシアター（鹿児島県鹿児島市）

脚本をはじめ衣裳まで全て自分達で制作している個性豊かな劇団である。毎年地元で定期公演を開催、各イベント出演や施設訪問など地域に根付いた活動をしている。

2008年から市教育委員会事業に参加し小・中学校での健全育成や感性教育、さらにミュージカルの指導を行うことにより鹿児島の文化発展に貢献できる人材の育成を目指している。

伝統芸能分野

① 下柴獅子団（福島県喜多方市）

喜多方市下柴地区に伝わり春の彼岸に舞うことから彼岸獅子の名で保存され、440年以上も伝承されている会津彼岸獅子の発祥として知られている。

現在は後継者不足により数団体のみ存続しているが、踊り・囃子方の定期練習や獅子舞の歴史を学ぶ会など、積極的に伝承保存活動を行い後継者の育成に尽力している。

② ^{かねこ もとしげ}金子 元重（神奈川県横浜市）

鎌倉時代から豊作祈願の予祝の行事として毎年正月に鶴見神社に奉納されてきた「鶴見の田祭り」は、明治4年県令により廃絶。しかし貴重な民俗神事芸能の復活を願い、田祭りの根幹をなす古文書を発掘し三島大社などの田遊びを参考に昭和62年に再興復活を遂げた。

保存継承のため演者の^{かむほぎうた}神寿歌伝集会を開き、記録として毎年冊子を発行している。

③ ^{たかではっこう}高寺八講保存会（山形県鶴岡市）

平安末期から鶴岡市羽黒町高寺の雷電神社に伝わる一連の舞であり、出羽三山の山岳信仰との深いつながり伝える。舞い手の組が8番あったため八講と言われたが、現在は4番が伝承されている。

毎年、例大祭や出羽三山神社の花祭りで舞を奉納、県内のイベントでも公演を行い、青少年への継承活動に取り組んでいる。

④ ^{よねかわ}米川の水かぶり保存会（宮城県登米市）

江戸時代から伝承され2月初午に開催する奇祭。五日町の男達だけが参加でき、顔にかまどの煤を塗り^{すす}藁で作

った装束を身につけ神の使いに化身し、法輪山大慈寺などに火伏せ祈願をしたのち町に繰り出す。水を家々にかげながら火伏せを祈願、人々はご利益のある藁を装束から抜取り屋根に上げたりして火伏のお守りにする。

⑤ じもくじせっきょうげんじぶし 甚目寺説教源氏節もくもく座（愛知県あま市）

説教節は室町時代から 400 年以上にわたり語り伝えられた民俗芸能。甚目寺説教源氏節は江戸浄瑠璃に源氏節が加わりできたもので、同団体は原形を継承している数少ない存在である。江戸末期に尾張地方から全国に広まるが昭和 50 年に途絶え、その後現存する人形や本などの資料を基に再興した。現在では県外でも公演をするなど積極的に活動している。

⑥ 大沢獅子舞保存会（青森県弘前市）

弘前市大沢に伝わる一人立三人舞の獅子踊（獅子舞）である。舞は兄獅子・弟獅子・女獅子とオカシコ（猿）で構成されている。獅子踊は「鹿獅子」「熊獅子」の 2 系統があるが、大沢獅子舞は「熊獅子」系統であり『豊穰祈願の舞』とも言われる。3 月に獅子おこしを行い 7 月・8 月は奉納、11 月半ばに町内を巡回して獅子納めを行う。

⑦ 唐津人形浄瑠璃保存会（佐賀県唐津市）

唐津は近松門左衛門ゆかりの土地であり、浄瑠璃を通じて歴史的価値の継承と地域文化の向上を目的として設立された。

昔から人生の教科書といわれた浄瑠璃の継承活動は、地元小学校の年間プログラムに組み込まれている。九州で唯一の太夫が同保存会の会長を務め、県内だけでなく九州全域で浄瑠璃の指導にあたり継承活動を行っている。

伝統工芸技術分野

① うえなか あきひろ 上仲 昭浩（京都府京都市）

帯や着物に金箔を施す金彩工芸技術は桃山・江戸時代に確立。金彩工芸の魅力は、施された金箔紋様が光線や見る角度によって立体的に浮かび上がることにある。この魅力を存分に生かせるデザインと、シンプルながら神秘的な作品づくりを心掛けています。

近年は呉服物だけでなく、異分野の職人とのコラボにより様々な実用品に伝統技術を活かすチャレンジをしている。

② おおた いさお 太田 勲（滋賀県大津市）

京都伝統工芸大学漆工芸専攻に入学、京塗師・大家忠弘に師事する。平成24年には京都府『京もの認定工芸士』となり制作活動を行うが、現在は9割が受注生産という職人仕事である。職人仕事は技術は磨けるが感性を磨くのは難しいため、伝統技術の後継者育成活動に力を入れ、自身の活動が工芸に携わる後進の佳き指針になるべく新しい活動にも取り組んでいる。

③ まつえだ てつや 松枝 哲哉（福岡県久留米市）

久留米緋は昭和32年に「重要無形文化財」に指定された。指定要件が“わざ”であり、その“わざ”を高度に体現している人を保持者として認定している。

3年間修業したのち技術保存会による5年間の研修を経て、更に制作工程等の厳しい検査に合格して初めて伝承者となる。松枝家は代々伝承者の研修制度に尽力し、後継者育成に努めている。

④ 飯田商工会議所-飯田水引プロジェクト-（長野県飯田市）

水引はこの地方の特産品であり全国の70%を占めるが、

冠婚葬祭の簡素化や海外製品が市場を占め、手作業で制作する事業者が激減している。

伝統工芸と産業の両面から普及発展させるべくワークショップ等を開催し技能五輪等を実施、贈り物・技・アートとしてのコンセプトを明確化した。また装飾品の開発など本来の使用方法以外の可能性を探る。

⑤ ^{すぎはら}杉原 ^{もくぞう}木三（^{ひがしむろかた}宮崎県東諸県郡）

大学で^{ちゅうきん}鋳金を学ぶ。明治初期ごろの「野吹き」「出吹き」（現地に出向き鐘などを制作する）を見習い、アトリエ以外でも屋外や制作設備の整っていない場所で制作を公開したり、鋳金を知らない人々にその魅力や技術、歴史を知ってもらおうワークショップを行っている。地域の方々と触れあいながら鋳金の伝統工芸技術を守っていくため活動している。

⑥ 丹波布技術保存会技術者協会（兵庫県丹波市）

かつて^{しまぬき}縞貫、佐治木綿とも呼ばれていた「丹波布」は制作工程の全てが手作業のため半年を要する。昭和32年『国指定選択無形文化財』に認定され、平成に入り後継者育成講座や伝承館を開き継承活動に努める。

現在は輸入綿に頼っているが平成21年頃から自分達で栽培を始めるなど、丹波布の技術工程を保存するため尽力している。

⑦ ^{もり}森 ^{かつよし}克容（奈良県奈良市）

室町時代、興福寺二諦坊で製作された南都（奈良）の墨＝^{ゆえんぼく}油煙墨は、南都油煙といわれ墨の代名詞であった。江戸時代には40軒あった墨屋は10軒ほどになったが、街をあげて製墨技術者の育成等に尽力している。

「ならまちまちかど博物館（住民がボランティアで仕

事場や収集品を公開する)」では、小中学生向けの講演や体験の機会を実施している。

食文化分野

① 建部清庵文化顕彰会（岩手県一関市）

建部清庵は杉田玄白と交流があり当時の医学の指針を示した偉人。東北地方を度々襲っていた飢饉に対し「民間備荒録」「備荒草木図」を著し山野草や救荒作物による救命を知らしめた。

一関市では顕彰会を立ち上げ地域の食文化としての山野草を活用した料理の伝承と開発を、農商工連携も視野に置いて地域活性の試算に育てる活動を始めている。

② 滋賀の食事文化研究会（滋賀県大津市）

教育者・研究者・調理実習経験者等により構成され、地域住民から地のものなど食文化について学び新しい郷土料理を開発、若い世代が食生活に活かせるよう料理本の作成に取り組む。

この事業は滋賀の食材の次世代への伝承に役立つだけでなく、地産地消の取組みが盛んになれば生産農家の励みにもなるため、講習会の開催や新聞等の広報活動を行っていく。

③ 千葉伝統郷土料理研究会（千葉県四街道市）

千葉の最も代表的な郷土料理は太巻きずしであり、冠婚葬祭など人の集まる時に食された。農産物や海産物など地のものを活かして、家庭でも代々伝承されてきた。

次世代を担う小中学生を対象として、地元栽培の食材や地域の産業を学びながら郷土料理を伝承する機会づくりとして、太巻きずしのデザインコンテストを開催するなど活動を行っている。

Ⅱ. 庶務の概況

1. 役員等に関する事項 (平成 29 年 7 月 31 日現在)

役職名	氏名	就任年月日	職務	報酬	現職
	東 龍 男	H23. 8. 1		なし	放送作家、作詞家、脚本家
※	井 上 幸 夫	H25. 9. 30		なし	全国税理士共栄会副会長
	織 田 紘 二	H23. 8. 1		なし	演出家、日本芸術文化振興会顧問
※	神 津 信 一	H25. 9. 30		なし	日本税理士会連合会会長
	小 林 鈴 男	H27. 9. 25		なし	全国税理士共栄会副会長
	白 石 和 己	H23. 8. 1		なし	工芸評論家
	西 川 箕乃助	H28. 7. 1		なし	日本舞踊家、(公財)日本舞踊振興財団理事
	萩 原 朔 美	H23. 8. 1		なし	多摩美術大学名誉教授
	橋 本 雅 博	H28. 7. 1		なし	住友生命保険相互会社取締役代表執行役社長
	藤 原 弘 治	H29. 7. 5		なし	株式会社みずほ銀行取締役頭取
※	前 新 健千代	H25. 9. 30		なし	全国税理士共栄会相談役
※	宮 田 義 見	H25. 9. 30		なし	近畿税理士会顧問
	渡 辺 睦	H29. 7. 5		なし	三井住友信託銀行株式会社専務執行役員

(13名)

理 事	南 口 純 一	H23. 8. 1	理 事 長	なし	全国税理士共栄会会長
理 事	藤 田 讓	H23. 8. 1	副理事長	なし	朝日生命保険相互会社最高顧問
理 事	三 隅 治 雄	H23. 8. 1	副理事長	なし	(独)東京文化財研究所名誉研究員
理 事	角 本 浩 一	H23. 8. 1	専務理事	なし	全国税理士共栄会常務理事
理 事	森 征一郎	H25. 9. 30	常務理事	なし	全国税理士共栄会副会長
理 事	佃 一 可	H23. 8. 1	常務理事	なし	一茶菴家元十四世
理 事	筒 井 義 信	H25. 9. 30		なし	日本生命保険相互会社代表取締役社長
理 事	仁 科 工 ミ	H25. 9. 30		なし	放送大学教授、総合研究大学院大学教授
理 事	藤 本 草	H23. 8. 1		なし	(公財)日本伝統文化振興財団理事長
理 事	二 宮 雅 也	H27. 9. 25		なし	損害保険ジャパン日本興亜株式会社代表取締役会長

(10名)

監 事	小 林 恒 男	H25. 9. 30		なし	全国税理士共栄会副会長
監 事	松 尾 憲 治	H23. 8. 1		なし	明治安田生命保険相互会社特別顧問
監 事	吉 田 雅 俊	H23. 8. 1		なし	株式会社日税ビジネス代表取締役会長兼社長

(3名)

分野名	氏名	就任年月日	職務	報酬	現職
芸術活動	榎本了亮	H23. 8. 1	選考委員長	なし	大正大学地域構想研究所特命教授
芸術活動	大濱純三	H23. 8. 1	選考委員	なし	音楽評論家、NHK文化センター講師
芸術活動	杉昌郎	H23. 8. 1	選考委員	なし	舞踊作家
芸術活動	蛭川有紀	H23. 8. 1	選考委員	なし	画家、女優
芸術活動	林あまり	H23. 8. 1	選考委員	なし	歌人、演劇評論家
伝統芸能	大橋力	H23. 8. 1	選考委員長	なし	国際科学振興財団主席研究員、 情報環境研究所所長
伝統芸能	藍本結井	H23. 8. 1	選考委員	なし	日本舞踊評論家・研究者
伝統芸能	児玉信	H23. 9. 8	選考委員	なし	芸能評論家、邦楽プロデューサー
伝統芸能	田中英機	H23. 9. 8	選考委員	なし	くらしき作陽大学客員教授
伝統芸能	手島敦子	H24. 12. 3	選考委員	なし	国立劇場制作部公演計画課長
伝統工芸	戸津圭之介	H23. 10. 21	選考委員長	なし	東京芸術大学名誉教授
伝統工芸	金子賢治	H23. 9. 8	選考委員	なし	茨城県陶芸美術館長
伝統工芸	佐々木正直	H25. 8. 1	選考委員	なし	群馬県立館林美術館館長
伝統工芸	林香君	H28. 6. 14	選考委員	なし	陶芸家
伝統工芸	藤森照信	H23. 9. 8	選考委員	なし	建築家、東京大学名誉教授
食文化	熊倉功夫	H27. 1. 26	選考委員長	なし	MIHO MUSEUM館長
食文化	岡副真吾	H27. 1. 26	選考委員	なし	金田中主人、東京新橋組合頭取
食文化	奥村彪生	H27. 1. 26	選考委員	なし	伝承料理研究家
食文化	神崎宣武	H27. 1. 26	選考委員	なし	民俗学者、旅の文化研究所所長
食文化	宮嶋勲	H27. 1. 26	選考委員	なし	ジャーナリスト

(20名)

顧問	瀬戸晃	H23. 8. 1		なし	全国税理士共栄会顧問
顧問	今野和郎	H23. 8. 1		なし	全国税理士共栄会相談役
顧問	惣洞和子	H23. 8. 1		なし	全国税理士共栄会顧問

(3名)

*任期

評議員：平成27年定時評議員会終結時から平成31年定時評議員会終結時
 (※印平成25年定時評議員会終結時から平成29年定時評議員会終結時)
 理事：平成27年定時評議員会終結時から平成29年定時評議員会終結時
 監事：平成27年定時評議員会終結時から平成31年定時評議員会終結時
 選考委員：平成27年8月1日から平成29年7月31日

2. 職員に関する事項

職 務	氏 名	就任年月日	担任事務
局 長	佐 伯 仁	H24. 4. 1	職員の管理監督等
課長補佐	桑 原 加奈子	H14. 5. 10	事務全般
職 員	宮 崎 真	H26. 8. 1	事務全般

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催日	議事事項	会議結果
平成28年9月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第25期事業報告に関する件 2. 第25期収支決算報告に関する件 3. (株)中田ビジネスコンサルティングとの業務委託契約の継続に関する件 4. 特定資産及び流動資産定期預金満期後の運用に関する件 5. 第26期定時評議員会開催等に関する件 6. 第26期定時評議員会提出議案等に関する件 	原案どおり可決
平成29年1月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第25回顕彰候補者の決定に関する件 2. 第26期助成候補者の決定に関する件 3. 慶弔規程の一部変更に関する件 4. 会計規程の一部変更に関する件 5. 選考委員会規程の一部変更に関する件 6. 財産運用管理基準の一部変更に関する件 7. 特定資産定期預金満期後の運用に関する件 	原案どおり可決
平成29年6月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第27期事業計画書(案)に関する件 2. 第27期収支予算書(案)に関する件 3. 会計規程の名称変更に関する件 4. 定款の一部変更に関する件 5. 評議員の辞任に伴う補充選任に関する件 6. 任期満了に伴う選考委員の改選に関する件 7. 退任評議員及び理事に対する感謝状等の贈呈に関する件 8. 基本財産定期預金満期後の運用に関する件 9. 第26期臨時評議員会開催等に関する件 10. 第26期臨時評議員会提出議案等に関する件 	原案どおり可決

(2) 評議員会

開催日	議事事項	会議結果
平成28年10月3日	1. 第25期事業報告に関する件 2. 第25期収支決算報告に関する件	原案どおり可決
平成29年7月5日	1. 定款の一部変更に関する件 2. 評議員の辞任に伴う補充選任に関する件	原案どおり可決

(3) 監事会

開催日	議事事項	監査報告
平成28年8月22日	第25期中間監査 平成28年2月1日から平成28年7月31日まで 第25期決算監査 平成27年8月1日から平成28年7月31日まで	事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しており、理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適法且つ適正に示している。
平成29年3月3日	第26期中間監査 平成28年8月1日から平成29年1月31日まで	監査対象期間の業務は法令及び定款に従い、適法且つ適正に執行されている。財務諸表及び財産目録等は、法人の財産及び収支の状況をすべて適法且つ適正に処理されている。

(4) 選考委員会

開催日	議事事項	会議結果
平成28年12月9日	1. 第25回顕彰「全税共 人と地域の文化賞」対象の選考に関する件 2. 第26期助成対象の選考に関する件	選考結果参照

<選考結果>

① 顕彰（第25回「全税共 人と地域の文化賞」）

伝統芸能分野

田原祭保存会（京都府宇治田原町）

正 賞：ブロンズ像（栗津 潔 作）

賞 金：100万円（本財団）

副 賞：100万円（出捐団体/全国税理士共栄会）

② 助 成

芸術活動分野

助 成 対 象 名	都道府県	助成金額
特定非営利活動法人福祉工房 P&P	京都府	50万円
特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ	大阪府	50万円
一般社団法人日本合唱協会	千葉県	50万円
北海道打楽器協会	北海道	50万円
劇団すがお	三重県	50万円
山縣 太一（やまがた たいち）	静岡県	50万円
伊藤 美由紀（いとう みゆき）	愛知県	50万円
特定非営利活動法人アートステージ空知	北海道	50万円
NPO 法人 菅崎千年音楽舎	福岡県	50万円
ジャパニーズコンポーザーアーカイヴズ	東京都	50万円
安倍圭子プロジェクト実行委員会	東京都	50万円
鳥公園	東京都	50万円

助成対象名	都道府県	助成金額
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響（きょう）-kyo	東京都	50万円
水越 朋（みずこし とも）	神奈川県	50万円
河内いえ・まち再生会議	大阪府	50万円
秋吉台現代音楽研究会	山口県	50万円
愛知祝祭管弦楽団	愛知県	50万円
いわきフレンズ未来夢プロジェクト実行委員会	福島県	45万円
東川町写真の町実行委員会	北海道	50万円
はなもとゆか×マツキモエ	京都府	50万円
NPO 法人ミュージカル劇団エルフシアター	鹿児島県	50万円
計 21 件		1,045万円

伝統芸能分野

助成対象名	都道府県	助成金額
下柴獅子団	福島県	50万円
金子 元重（かねこ もとしげ）	神奈川県	50万円
高寺八講（たかでらはっこう）保存会	山形県	15万円
米川（よねかわ）の水かぶり保存会	宮城県	50万円
甚目寺説教源氏節（じもくじせっきょうげんじぶし）もくもく座	愛知県	50万円
大沢獅子舞保存会	青森県	25万円
唐津人形浄瑠璃保存会	佐賀県	50万円
計 7 件		290万円

伝統工芸技術分野

助成対象名	都道府県	助成金額
上仲 昭浩（うえなか あきひろ）	京都府	50万円
太田 勲（おおた いさお）	滋賀県	50万円
松枝 哲哉（まつえだ てつや）	福岡県	50万円
飯田商工会議所-飯田水引プロジェクト-	長野県	50万円
杉原 木三（すぎはら もくぞう）	宮崎県	50万円
丹波布技術保存会技術者協会	兵庫県	20万円
森 克容（もり かつよし）	奈良県	50万円
計 7 件		320万円

食文化分野

助成対象名	都道府県	助成金額
建部清庵（たてべせいあん）文化顕彰会	岩手県	50万円
滋賀の食事文化研究会	滋賀県	50万円
千葉伝統郷土料理研究会	千葉県	45万円
計 3 件		145万円

4. 文部科学大臣宛の提出書類に関する事項

該当なし

5. 内閣府等宛の提出書類に関する事項

提出日	届出・報告事項
平成28年8月25日	変更の届出（評議員の変更）
平成28年10月7日	修正提出書（履歴事項全部証明書データの提出）
平成28年10月31日	平成27年度事業報告等の提出
平成29年1月27日	修正提出書（決算報告の一部修正）
平成29年7月7日	平成29年度事業計画書等の提出
平成29年7月13日	変更の届出（定款の変更）

6. 諸官庁宛の提出書類に関する事項

提出日	提出書類	官庁名
平成29年1月30日	平成28年分給与所得の源泉徴収票等の法定調書合計表	品川税務署

7. 登記に関する事項

登記日	提出書類	官庁名
平成28年8月9日	評議員変更登記	東京法務局

8. 附属明細書に関する事項

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上